

子どものしつけの三大原則

先日、買い物に行くとき保護者のお母さんに出会いました。別に悪いことをしているわけではありませんが、なぜか「悪いことはできんなあ。」と怒ってしまいました。

お母さんが私のところへやって来て、「この前の『子宝』の紹介されていた、子育てで大切な三つのことのうち、あと二つは何ですか？」とっさには出てこず、ちょっと情けないなあと思いました。「必ず、次号でお知らせします。」と約束をしました。

前号で紹介した森信三先生の多くの著書のなかに、先生のお話しをまとめられた「一つ一つの小石をつんで」というものがあります。そのなかの「子どものしつけの三大原則」の部分を抜粋してご紹介します。

…根性や性根のある人間にする秘訣としては、常に腰骨を立てる（立腰：りつよう）ようにさせるほかないということ…について申しましたから、次はいよいよ「しつけ」の根本原則について申すことにいたしましょう。

…第1は、『朝、必ず親に挨拶をする子にする。』とうことです。もしこれができていなかったら、親のしつけ点は三点三分引かれて、六点七分ということになります。

次に第2のしつけとしては、『親に名前を呼ばれたら、必ず「ハイ」と言って、「ナアーニ？」と言わない子にする。』とうことです。ですから、この二つができていなかったら、話しにならぬヒドイ落第点というわけです。

第3は、『席を立ったらイスを出しっぱなしにしないこと、また、ハキモノをぬぎっぱなしにしない』とうことです。

…では、

どうしてしつけの根本は、以上の三つですむのでしょうか？たった三つだけで良いなんて、おかしいと思われる方もおありでしょうが、前の二つ、つまり『あいさつ』と『返事』で、子どもに親の言うことを聞く受け入れ態勢ができるからであります。

…そこで次は、どうしたら我が子を、朝、親に対してあいさつをし、呼ばれたら「ハイ」と返事をする子にできるかと申しますと、それは、結局皆さん方が、その模範をお示しになるほかないのであります。それというのも、子どものしつけというのはお説教ではできないものでありまして、しつけの責任者たる、親自身の実行によるほかないからであります。

私は、この文中にある「親」というところを「教師」と置きかえて読んでいますし、職員にも同様のことを求めています。「親」だけでもダメでしょうし、「教師」だけでもダメでしょう。

「子どもに対して」だけではだめでしょう。「親」と「教師」の関係においても、「教師」と「教師」の関係においても同じではないでしょうか。お互いが理解しあい、協力しあってこそ、子どもたちが豊かに成長していくものだと思います。